



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

メディアを活用した 地域づくりあれこれ

私たちが地域づくりに取り組んだ昭和後半から平成前半にかけては、メディアといえば新聞・雑誌・ラジオ・テレビといったマスメディアで、他のメディアを利用した地域づくりなど殆んど無きに等しい状態でした。ところが近年になってパソコンが急速に普及し、デジタル情報は地域や国の垣根を越え、今やパソコンがあつてネット条件が整えば、瞬時にアクセスが可能で、色々な情報をどこでも誰とでも共有できるような時代になったのです。しかしそのことが一方では情報を氾濫化、混乱化させ、必要情報と不必要情報の区別さえ出来ない状態になっているのです。



最近の地域づくりは、どちらかというと実践より理論が先んじていて、地域づくりのプレゼンテーション等は小さな田舎町でもメディアを活用した、まるで国際会議並みの基礎資料が手づくりで用意され、得意げになつて自分たちの作成した資料の発表に酔いしれているのです。しかしそれらの殆んどは、聞いても何故か頭に残らず、心を揺り動かされて行動に役立たないのは何故なのでしょう。

身近なメディアでの 情報発信と交流と記録

私はパソコンを学校教育で習わなかった世代です。ゆえにパソコンが大の苦手です。それでも情報化時代における地域

づくりにとって、メディアは欠かすことのできない情報源であることから、情報の加工までではできなくても、最低限の入力と出力だけは何とか独学で学び今日に至っているのですが、メディアの領域は間口が広くて奥が深く、充分な活用ができていないのです。

私は平成の大合併を機に役場を退職してから六年余りになりますが、地域づくりや日々の想いを「shin1さんの日記」というブログを使って、殆んど毎日二本の記事を書いています。一ヶ月に約六十本も書く筆まめな記事に、時には読み人知らずながら一日千人を超えるアクセスがあるほどで、折々いたたくコメントの多さも驚くばかりです。一ヶ月分まとめてプリントアウトした記事に表紙をつけ、人間牧場・水平線の家の書棚に並べ来訪した地域づくり人に読んで活用してもらっています。

「記録しないものは記憶されない」とは山口県周防大島出身の民俗学者宮本常一の言葉ですが、その言葉通り宮本常一は膨大な記録を残していて、地域づくりにとって記録して後世に残すことは、今に生きる人間の務めではないかと思うのです。人の記憶は曖昧でメディアを活用した記録こそ記憶を呼び起こす大切な道具のような気がするのです。

メディアを使った年輪塾の新しい学習方法

私が塾長を務める私塾年輪塾は、私の造った人間牧場で四年前に産声を上げました。二年を区切りとして先人に学ぶことをテーマに、最初はノンフィクション作家佐野真一さんをして「旅する巨人」と言わしめた、民俗学者宮本常一の生きざまを学びました。最初の二年間は宮本常一から多くのことを学びましたが、それは殆んどこれまでの学習と変わらないう、塾生が人間牧場に集まり講義を聴くといった集団学習の受動的形態でした。これでは幾ら学習しても個々の成長進化は望めず、三年目の先人に二宮金次郎を選んでから、金次郎が尊徳と名を改めて語った尊徳翁夜話二百三十三話を、メディアを使って毎週一話ずつ塾頭の清水和繁さんが解説書を作り、塾生にメール配信して自己学習するように工夫したのです。四十人を超える塾生は一斉配信したメールを受け取るや、それをプリントアウトしてファイルし、自己学習に活かしています。現代のメディアを使った自己学習のお陰で、年に四回の集団学習は塾長・塾頭の輪読ライブで随分深い学習が出来ています。このことがきっかけで、あらし山年輪塾、高知県馬路村年輪

塾、大洲市田処大杉年輪塾などが誕生しました。それにしても二百三十三話にも及ぶ解説書を作成しインターネットで配信した、清水さんの苦労は並大抵ではなかったろうと、労をねぎらうのです。

声のメディアを使った試み

メディアといえばもう一つ、音のメディアがあります。阪神淡路大震災や東日本大震災は未曾有の災害をもたらしました。特に2011年3月11日に起こった地震と津波は原発事故を誘発して多くの犠牲者を出し、被災した人たちは今なおその難儀に苦しめられているのです。そんな折大きな役割を果たしたのはごく限られた地域にしか届かない、コミュニティラジオから流れる情報だったそうです。藁をも掴みたい極限の状態で聞くコミュニティラジオの声は被災した人たちにどれほどの勇気を与えたことでしょうか。

私が関わって十数年も前に始め、今でも夏期限定で取り組んでいる事業に、夕焼けステーション（放送局）があります。海を埋め立て造成して造ったふたみシーサイド公園は今や年間五十五万人もの人が訪れる人気スポットに成長しています。夏の土日になると大勢の海水浴客が

砂浜を埋めますが、その人々を対象に人工砂浜に向けて五本のスピーカーを立て、サテライトホールからラジオ番組放送にも似た手法で海水浴客を巻き込みながら色々な話題を放送しています。ご存知小林真三さんが中心となったデイスクジョッキー風の放送はとても好評で、将来は防災にも役立つようなコミュニティラジオにでも発展させたいと思っています。

メディアを活用した地域づくりはこの他にも、ミニコミ誌やコミュニティFM、ネットバーチャルビジネスなど様々で、今後も発展が期待できますが、ネットで流れる個人情報などにはくれぐれも用心しなければなりません。

メディアとは 情報媒体 言うような
どんなに使う 方法見えず
学校で 習ってなくて 使えない
パソコン手順 子らに教わる
ドットコム どこが混むのと 勘違い
コミュニケーション 世代断絶
ブログ書く 誰が読むのか カウンントは
時に千人 超えてアクセス
(若松進一 笑売唆呵より)